

広報

土づくり



自然体の気まま暮らし

情緒あふれる水の都、鳥根県松江市で一人暮らしを満喫している黒川美和さん。飄々と穏やかに日々を楽しむ黒川さんの等身大の姿をご紹介します。

Q ー出身は？

A 鳥根県江津市です。平成元年に生まれて、18歳ごろまで江津市で暮らしていました。

Q 発症はいつからですか？

A 生まれつきですね。二分脊椎症といって、ざっくりとではあるんですけど、神経が飛び出た状態で生まれてきました。小さい頃はそれを閉じる手術を何回もしたり、合併症も色々あって、水頭症にもなりました。下半身も動かず、歩くことはできません。側弯もあるので、今は背骨が曲がった状態です。あと、左手に麻痺があるので重たいものは持てない感じですね。お茶碗す

ら持てません。

Q 学校について

A 保育園では、できることは他の子たちと一緒にしていたんですが、障害があるということ、特別に専属の保育士を付けてもらっていました。ベビーカーみたいなのに乗って、それを押してもらって移動して、その人と一緒に行動する感じでした。

卒園後は、小・中・高と、同じ特別支援学校に12年間通っていました。学校までは車で20分くらいだったので、親に送迎してもらって、私自身は一般の学生と同じような形で授業を受けていました。

Q 当時の思い出は？

A 学校にはいろんな障害を持つ子がいて、あんまり喋れる子はいなかったんです。放課後に散歩と

いうこともないし、楽しかった思い出は…特にないです。家と学校の往復という感じで、家に帰るとテレビを見たり、宿題をしたりしてました。当時は洗濯や着替えといった身の回りのことに手助けが必要で、自分でできないことも多かったたので、将来の不安はありましたね。

Q 施設について

A 卒業後、松江市の施設に入所しました。19〜28歳まで施設で暮らしていましたが、そこで洗濯・掃除など、自分の身の回りのことが色々できるようなったかなという感じでした。面倒くさいと思うこともありましたけど、今思えばそういう訓練をしてきて良かったなと思います。

ただ、車椅子に座ったままなので、褥瘡ができてしまつて。手術や入院もしたんですが、親も高齢だし、これ以上迷惑はかけられないなと思っていたんです。そんな時、友達が一人暮らしを始めたので、それをきっかけに、私も松江市内にアパートを借りて一人暮らしをするようになりました。

Q 一人暮らしを始めてどうでしたか？

A 一人暮らしを始めるとなったときは、自分で何もかも決めなきゃいけなかったのが大変でした。アパートの手配や書類の手続き、お金の管理も一人でしなきゃいけなかったの

で、そこが一番大変でしたね。でも、できることは何でも自分でしたいという思いもあったので、すべてが勉強という感じでした。というのも、書類は毎年同じことを何回も書かなきゃいけないので、面倒くさいですけど(笑)

Q 一人暮らしの良いところは？

A やっぱり門限のないところが…(笑)施設では、食事は決まった時間に出てくるし、ちょっと外出したくてもタクシーを使わなきゃいけない、それだけでもお金がかかってくるので、あんまり外に出る気はしなかったんです。一人暮らしになつてからは自由が利くようになったので、色んなところに行くようになって。そういう部分で、やっぱり一人はいいなと思いました。時間があればカフェ巡りをしたりして、もう5年になりますけど、自由に快適にやっております。

Q 就労について

A 4年ほど前から、就労継続支援B型事業所に通って軽作業をしています。ペンの汚れがないかをチェックしながら箱に入れていく作業とか、コピー用紙を袋に入れて、納品するとか。12月くらいになればカレンダーの仕事も来ます。9時〜16時半まで、週4日通っています。



宍道湖にて

<プロフィール>

名前:黒川 美和(クロカワ ミワ)

年齢:33歳

障害名:両手、体幹、膀胱直腸機能障害(二分脊椎、脊髄髄膜瘤)



Q 現在の支援状況は？

A 今は色々な事業所から日中の支援に入ってもらっています。夜間はないです。土屋さんは去年の12月から利用していて、毎日じゃないですけど、入ってもらえる時は5時間くらい。まだあんまり月日が経っていないので、一緒に外出はしていませんけど、そろそろ暖かくなってくるし、今後はできればいいなと思っています。

Q これからやってみたいことは？

A 出かけたりするのが好きなので、旅行ができればいいなと思います。以前は、友達と飛行機や新幹線に乗って青森や福岡に行っていました。もちろんヘルパーさんも一緒に。それまではホテルを利用したこともなかったのですが、それも含めて、すべてが新鮮でした。使いにく

Q 辛かったことは？

いなと思うところがありますけど、それって変えられることでもないので、旅行に限らず、日々の生活でも、どういふふうにしようかって工夫しながらなんとかやっているという感じですね。でも落ち込むときは落ち込みます。実は今、障害とは別に、てんかんの疑いがある。それまでは風邪もひかないし、ほんとに元気だったんですけど、ここ2、3年、夕方から夜にかけてそういう症状が出てきて、意識を失う感じなんです。今のところは意識が戻るので色々対処してもらえますけど、夜はやっぱり怖いんです。それがてんかんかどうかの診断もまだ出ていなくて、今後

どうなっていくのかなという不安があります。

Q 生き方について

A 人との接し方で心がけていることは特にないですが、両親からは、「自分でできることをどんどん増やして欲しい」とは言われていました。あと、車いすに乗ってるから一目で障害があるとわかるんですけど、それを感じさせないようなきちんとした身だしなみをしなさい、と。これはいまだに言われます。私自身、女子力を上げたいと思うんですけど、なかなか上がらなくて(笑)

それに、介護系の仕事をしている2つ上の兄がいて、兄を頼ってみたいなことも言われてたんです。けど、兄は兄の人生があるし、自分で生きていくようにしたいというのはあります。

土屋スタッフ・新宮さんより
「黒川さんってこんなひと」

ほんとにこのままの自然体な方で、黒川さんからネガティブな発言を聞いたことはないです。いつも穏やかでポジティブで、それが黒川さんの普通のあり方なんです。いい意味で、飄々としているというか、淡々としているというか。そして、偏見を持って人を見ないんです。このヘルパーさんは嫌だとか、そういうのもなくて、みんなを同じ目線で見ている気がして、私も勉強になります。

広報・土づくりへの



ご意見・ご感想

株式会社土屋の各種取組みについてのご意見や、当社介護サービスにおいて虐待や不当な身体拘束が疑われる場合がありますらご一報ください。

ご意見・お問い合わせ窓口
client@care-tsuchiya.com



本社：
岡山県井原市井原町192番地2久安セントラルビル2階

HPIはこちら →



こもとゆみこ(夫が1種1級の脳性麻痺)

あきらめるな

夢叶えたい想い

新緑の若葉が気持ち明るくしてくれる季節になりました。就労や新しい環境に変わった皆さんはそろそろ慣れましたか？我が家の娘も高校生になり、5時起きで頑張って通学しています。専攻は音楽科で夢はピアニスト。そしてもう一つ、弾くだけではなく音楽を通じての共生コミュニティを作り、福祉に貢献したいという気持ちがあるようです。障害を持っていても持つていなくても音楽イベントに参加することで多様な人たちが繋がれる、楽しい時間を過ごせる場を作りたいと、まだ15歳なので甘いところではありますが、楽しそうな夢だなと思います。重度の障害があっても会場に行くことは難しい方も、今はネットで参加することが出来ます。彼女の夢が叶った時には是非皆様にご参加頂きたいです。ところで、我が夫は若い頃はギターを趣味としていました。でも、脳性麻痺で四肢に障害があり、二次障害と加齢に伴って手の感覚がなくなり指が動き難くなってしまうました。また今は座位が保てなくなつた為、普通の大きさのギターを抱えるのが難しくなっています。そこで、少し大きめのウクレレを購入しました。これならお腹の上に置けますし、指に力が無くてもナイロン弦なので押さえられそうです。娘と一緒に演奏したいという彼の夢も、一緒に叶うと私も嬉しいなあ...ということで、音楽共生コミュニティ作りは、親子3人の夢になりそうです。